

平成19年度予算編成のポイント

1．徹底的な内部管理経費の削減

平成19年度の予算編成においても、行政水準の向上と住民福祉の増進を図ることが行政の使命であり、限られた財源の中で計画的・効率的に事務事業を進めて行かなくてはならない。今回の編成作業では、事務事業全般にわたり積極的な見直しを行いより一層経費の節減合理化に取り組むこととし、出来る限り市民サービス水準の確保に努めた。特に以下の点について内部管理経費の見直しに重点を置き歳出予算の抑制・削減に努めました。

- * 一部分庁方式導入による職員の適正配置（非常勤職員・臨時職員の雇用の抑制）
- * 地域手当の抑制
- * 管理職手当の10%カットの継続
- * 需用費の削減（職員分事務用品のカット）
- * 旅費の地域限定・日当の全廃
- * 委託料の削減

2．チャレンジ予算の創設

ハード事業に偏り気味のなかでソフト事業を取り入れるため古河チャレンジ予算枠を設けて、新たなソフト事業の創設に取り組むこととした。

- * 地域資源発掘事業他6件事業をチャレンジ予算として計上しました。

3．財政の健全化

基金の取り崩しについては、平成18年度当初予定された財政調整積立金の残額の現状は維持し、市債の発行については、実質公債費比率の推移に注意しながら財政の健全化に最大限配慮しました。